

理科(物理・化学・生物・地学) 京都大学 (前期)

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

記述・論述・選択・描図

分量・難易 (前年比較) 分量 (減少・変化なし・増加) 難易 (易化・変化なし・難化)

問形式の設問が減少した。

出題の特徴

空所補充の設問以外に描図、論述問題が出題された。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	空所補充 (記述) 問形式 (論述)	力学 (鉛直面内の 円運動・ 放物運動)	物理	式をしっかりと立て、計算に注意を払うこと。	標準
II	空所補充 (記述・ 選択) 問形式 (描図)	電磁気 (ホール効 果・コンデン サー)	物理	テーマの基本手順を踏まえつつ、題意に沿って解いていくこと。	標準
III	空所補充 (記述・ 選択)	波動 (ドップラー 効果・ 波の干渉)	物理	(4) は反射音と直接音の位相変化を比べることがポイントである。	標準

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

1. 基本事項を正確に把握する。
2. 題意を正しく把握するための読解力を養う。
3. 図を用いて状況設定を正しく把握する習慣を身につける。
4. 正確で迅速な計算力を養う。